



日大明誠高校  
剣道部

# 堅い結束力を支えに 初心者集団が 関東大会に初出場

部員は、3年生を含め男子が8人、女子が7人。部員ゼロで休部となった時もあり、部員不足が悩みの種。それだけに部員同士の結束力は強く、地元の山梨県に東京都や神奈川県から電車通学組の部員を含め、練習に打ち込んでいます。



**剣** 道部の女子陣が山梨県高校総体を突破して、今年6月に開催された関東高等学校剣道大会の団体戦に初めて出場した。

首都圏を含め8都県計48の強豪校が集まるのが関東大会。それでなくても、団体戦は補欠を入れて計7人、最低でも3人の選手がいなければ出場さえかなわない。定員に満たない状態が続いた女性陣にとって、レベルの高い関東大会は文字通り「雲の上」の存在だった。

風向きが変わったのは2年前。期せずして4人の女子新入生が入部してきてからである。ただし、「中学時代は吹奏楽部。高校では何か精神的に成長できるスポーツがしたくて」（副将の永富真紀さん）、「東京消防庁に勤める父親が剣道の経験者」（先鋒の飯島香純さん）、「中学のバスケットボールとは全然違う武道を」（中堅の佐藤夏望さん）と動機がまちまちなら、経験者も小学1

年生から道場に通っていた大将の小畑斐郁さんのみ。練習は胴着の着け方や足さばきからという初心者集団からのスタートだった。

案の定、レベルの違う先輩との練習で力不足を痛感し、「思うように体が動かない焦りとプレッシャーで、週に一度は『もう辞める！』の弱音が飛び交った」。

それを補ったのが男女を越えた部員間の仲の良さ。「悪い癖は遠慮なく注意し合い、実戦の中で使えるように技を磨きあつた」

「試合中の声援も他校に負けず、チームワークは半端無い！（笑）」。2年生からはお仲間の藤井那奈さんがマネージャーとして加わり、県大会でも記録を残すように



なった。

関東大会では準優勝した神奈川の高校を含む3校ずつ総当たり戦であえなく敗退。決勝トーナメントまで進めず、4人の高校最後の試合は終わった。

大学でも剣道を続ける小畑さんを除く3人は竹刀を置くが、「継続して努力すれば結果がついてくると自信が」「引っ込み思案だった自分が剣道を通じて鍛えられ、積極性と礼儀を学んだ」と納得した様子だ。

嬉しいニュースを一つ——。先輩に発奮した2年生の西川晃平さんが8月の大月市制大会で見事に準優勝。女子陣の活躍で剣道部にも追い風が吹いてきた。